

※本資料のダウンロードはどなたでも可能ですが、無断での転載・複製を禁じます。
※自治体や病院、事業所など、団体として使用や配布を希望される場合は、事前に
京都市高次脳機能障害者支援センターまでお知らせください。

京都市高次脳機能障害者支援センター 高次脳機能障害入門講座 ダウンロード版資料

5 就労に向けて



入門講座5では、
(1) 就労へのステップ
(2) 当センターにおける就労支援の取組
を、説明するよ。

高次脳機能障害の概説は入門講座の1を、
各症状(障害)については2~4を参考にしな。

「地域に帰る」(地域リハビリテーションの推進)を
モットーにした
京都市地域リハビリテーション推進センターの
PRキャラクター。

1

本題に入る前に・・・(前提)

日常生活よりも就労は、より高い能力が必要！

- 日常生活は？
→ 毎日の繰り返しの課題は、障害があってもこなせることが多い
- 就労は？
→ 仕事内容、職種や職場により、
要求されることや必要とされる能力が、日々異なる

例えば、「電話対応」

- ・並行作業(聞きながら書く)
- ・聴覚的理解、発話能力、書字能力
- ・ワーキングメモリー など

明日の
予定あった
かな？

明日に
納品ですね



ここが
ポイント
!!

よく使われる言葉の意味で「簡単かどうか」で判断せず、
就労は『**職業適性**』が重要となる。

2

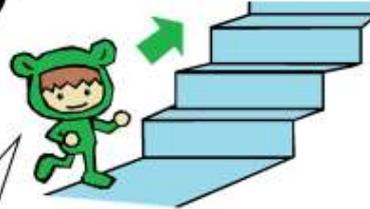


電話を受けるだけでも、いろんな能力が必要となるんだね。

そのうえ、仕事の電話となると、その会社の取り扱う商品やサービスの専門的な知識、瞬時の判断、
社会的マナーも必要になってくるよ。

自分の能力に適性のある仕事を探すためには、自身の特性把握が大事になるよ。

(1) 就労へのステップ



働き盛りの年代で、高次脳機能障害になる方も少なくない。
その方たちにとって、復職や就労というのは、重要なことだよね。

一方で、高次脳機能障害の症状や程度は人それぞれ。
その方にあった就労へのステップを、
本人、家族、周囲の人で考えていく必要があるよ。

まずは、モデルケースAさんを紹介するね。

3

●モデルケース Aさん(40代、女性)

- ・脳梗塞発症1年後、病状は安定し、日常生活も自立。
バスでの通勤も可能になったので、復職(事務職)。
- ・元の部署に戻ったが、パソコンの入カミスが多い、
午後はさらにミスが増える。
上司からの注意に対し、「ちゃんとやっているのに、
なぜ私ばかり注意されるのか」と納得できない部分も。
仕事も休みがちになり、まもなく退職することに。
- ・家でも、家族の些細な言葉にもイライラして、怒りやすくな
った。
- ・心配した家族が、当センターへ相談。

4

●モデルケース Aさん

脳の損傷部位や神経心理学検査の結果、
本人の訴えや、家族から聞く自宅での様子などから
自宅での生活上は支障がないレベルまで回復したが、

- 就労に必要なレベルの注意力や持続力
 - 自分の状況を客観的に把握すること
 - 障害で苦手になった部分を補う対策
- ➡ いわゆる
障害認識

上記に課題があると考えられた。

このことを、Aさんと家族と共有し、
安定して仕事を続けるにはどうすればよいかを
検討していくことに。

5



高次脳機能障害の対応の基本、なにごとにも状況の「観察・分析」からだったよね！

●モデルケース Aさん



観察・分析

うまくいったとき、
いかなかったときの
状況を観察し、次に試す。

ここで、
Aさんのつまづきの原因を検討してみるよ。

「パソコン(excel)の入力ミス」

- | | |
|---------------|----------------------------|
| ・入力位置を間違える | →空間注意の低下？ |
| ・転記ミス | →同時注意の低下？
ワーキングメモリの低下？ |
| ・入力ルールが覚えられない | →記憶力の低下？ |
| ・電話が鳴ると、気が散る | →注意(配分、切替)の低下？ |
| ・誤字、脱字 | →集中力(注意力)の低下？
選択性注意の低下？ |

- 「午後にはミスが増える」 →易疲労性による
持続力低下？



6



ここに挙げたのは一部で、他にもミスをする要因はあると思うよ。

注意力の低下がある人は、特に表の作成とか転記とかが苦手になりやすいよ。注意障害については、[入門講座2ダウンロード版資料](#)を見てね。

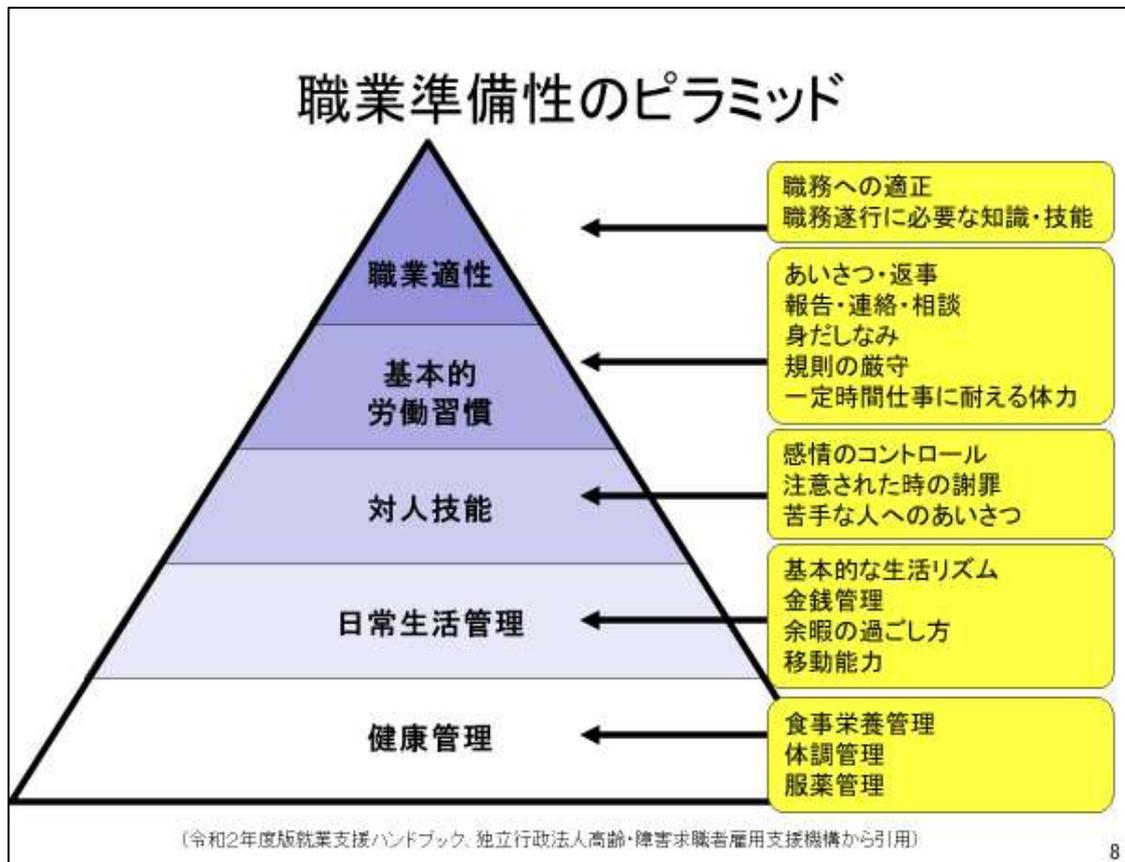
高次脳機能障害のある方の就労を考える上で・・・

- ・家での生活に必要なことと、就労に必要な能力は異なる。
 → 少しずつステップを踏み、準備をする。
- ・症状として「障害認識を持ちにくい」ことが影響し、自分ができると思っていることと実際にできることのギャップが生じやすい。
 → 自分が今できること、苦手なことを知っておく。
- ・他の障害に比べると、外見からは見えにくく、脳の損傷場所などにより、症状も人により異なるため、「高次脳機能障害」の方への配慮といっても、職場の人は、何をどうしたらよいか推測しにくい。
- ・どんな仕事内容や職場環境か、どれくらい周りの配慮を得られるかでも、症状が問題にならない場合もある。逆を言えば人事異動などでこれらの状況が変化したときに、うまくいかなくなることがある。
 → 自分の症状と、どんな配慮があると働きやすいかを、職場の人に具体的に説明できるようにしておく。

7



他には、自身の「職業適性」に応じた職種や仕事内容で求人を探すことも重要だよ。



8



就労を考えていくのに「職業準備性ピラミッド」が参考になるよ。安定して仕事を続けるために、土台からしっかり整えていこう。



高次脳機能障害の人の場合に、特に大切な職業準備性のチェックを挙げてみたよ。

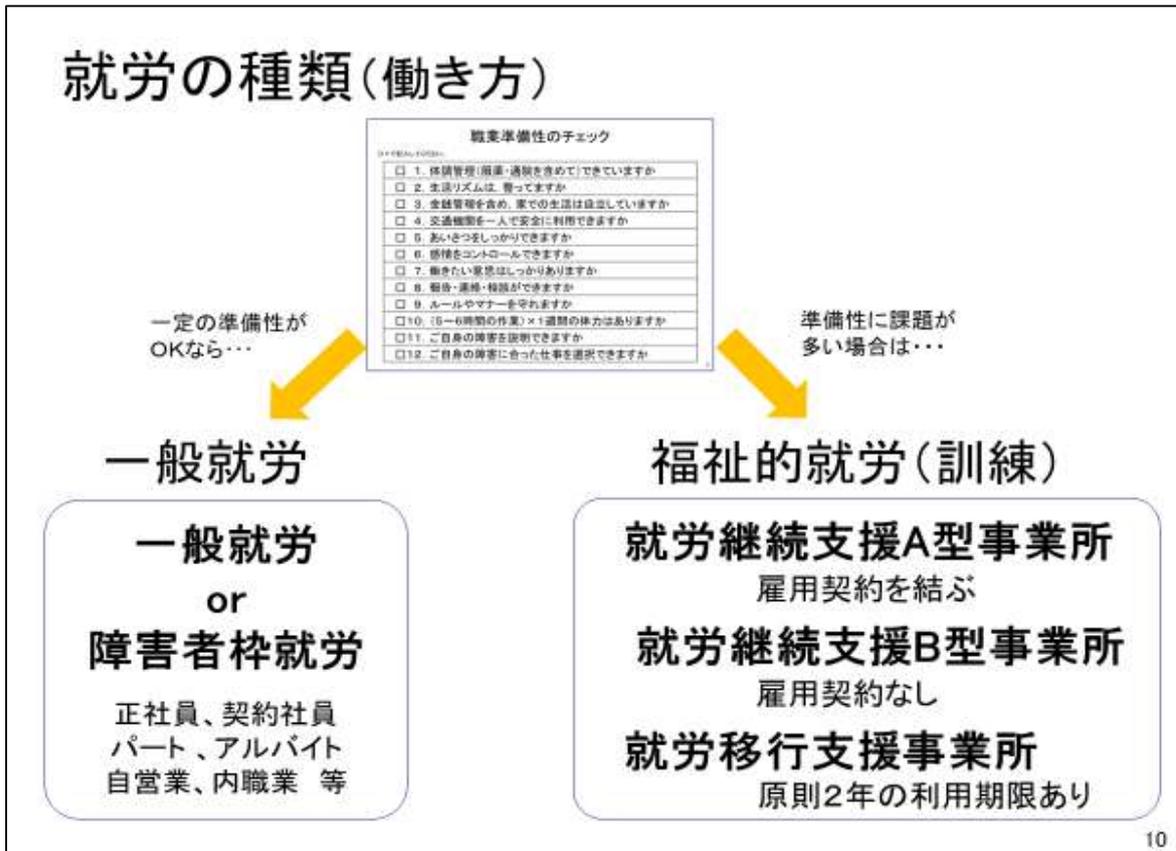
職業準備性のチェック

○×で記入してください。

<input type="checkbox"/>	1. 体調管理(服薬・通院を含めて)できていますか
<input type="checkbox"/>	2. 生活リズムは、整ってますか
<input type="checkbox"/>	3. 金銭管理を含め、家での生活は自立していますか
<input type="checkbox"/>	4. 交通機関を一人で安全に利用できますか
<input type="checkbox"/>	5. あいさつをしっかりとできますか
<input type="checkbox"/>	6. 感情をコントロールできますか
<input type="checkbox"/>	7. 働きたい意思是しっかりありますか
<input type="checkbox"/>	8. 報告・連絡・相談ができますか
<input type="checkbox"/>	9. ルールやマナーを守れますか
<input type="checkbox"/>	10. (5～6時間の作業)×1週間の体力はありますか
<input type="checkbox"/>	11. ご自身の障害を説明できますか
<input type="checkbox"/>	12. ご自身の障害に合った仕事を選択できますか

9

さきほどのAさんの場合は、6、8、10、11、12辺りの準備が弱いと言えそうだね。では、上のチェックリストで課題が多い場合は、どうすればいいんだろう？



職業準備性にたくさん課題がある段階では、一般就労にトライしてもうまくいかないことが多いので、表の右下のような就労支援機関で「職業リハビリテーション」(訓練)をしてから、一般就労にステップアップすることも良い方法だよ。ここで使う用語を説明しておくね。

●「障害者枠就労」

障害者雇用促進法に基づき、一定規模以上の会社は障害者を雇用する義務があるんだ(リンク:[法定雇用率](#))。ハローワークで「障害者求人」として出ているよ。障害者求人とはいえ、給料が発生するので仕事の能率は求められるよ。

●「福祉的就労」

障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスのうち、就労支援を目的にした3種の事業がある(リンク:[就労系障害福祉サービス](#))。

就労支援の福祉サービスを利用することになるので、前年度の所得等に応じて「利用料」がかかる人もいるよ。

「就労継続支援A型」は、雇用契約を結ぶため、最低でも週20時間以上の勤務が必要。給料として多くの場合、最低賃金が保障されるよ。

「就労継続支援B型」と「移行支援」の多くは、給料は出ない(作業内容により多少の「工賃」は出ることがあるよ)。自分の機能維持や向上のため、あるいは就労に向けた「訓練」と捉えよう。就労支援の事業所は市内にもたくさんあるので、いくつか見学して今の状態や目的に合う所を上手に活用してほしいな。



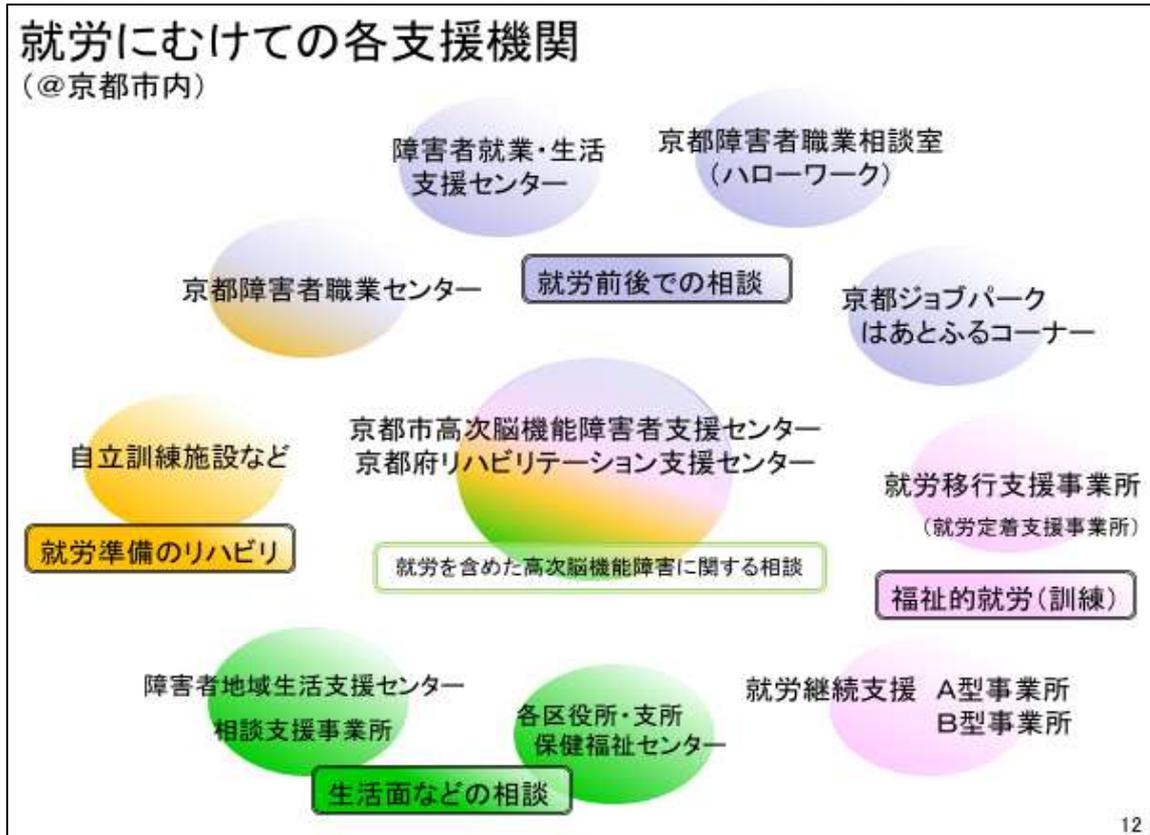
あと、働き方の大きな違いとしては、職場に障害のことを伝えるかどうかもあるね。

障害者求人ではない一般就労に応募するときは、障害のことを伝えないことが多いだろうから、そのデメリットも知っておいてね。

一般就労の場合、障害のことを会社に伝えるかどうか・・・		
働き方	メリット	デメリット
障害を伝える 「オープン」 (障害者枠就労)	<ul style="list-style-type: none"> ・障害特性に配慮した業務内容や就労時間の調整、不調時の配慮をしてもらえる可能性がある。 ・支援機関から職場に調整や助言ができる可能性がある。 ・職場での直接支援(ジョブコーチ等)を利用できる場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者手帳やハローワークでの障害者登録などが必要。 ・選択肢(求人数や業務の種類)が限られる。 ・手帳の取得や障害適性に合った求人を探したりと、応募までに時間がかかる。
障害を伝えない 「クローズ」 (≒通常の一般就職)	<ul style="list-style-type: none"> ・選択肢が多い。 ・特別な手続きが不要。 ・給料が良い求人もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通院日や不調時の配慮、業務調整など職場の配慮が得られにくい。 ・支援機関が介入しにくい。 ・適性のない仕事の場合、解雇されることがある。



高次脳機能障害のある方が就労するときに、関わることのある支援機関だよ。



各機関を詳しく知りたい場合は、名称(青色)をクリックしてみてね。 ※リンク切れの場合は、ご了承ください。
「就労を含めた高次脳機能障害に関する相談」

●[京都市高次脳機能障害者支援センター](#)、●[京都府リハビリテーション支援センター](#)

「就労前後での相談」

- [京都障害者職業相談室\(ハローワーク\)](#):職業紹介・障害者就職面接会の案内等
- [京都障害者職業センター](#):職業評価、職業準備支援、ジョブコーチ等
- [障害者就業・生活支援センター](#):相談、実習等
- [ジョブパークはあとふるコーナー](#):相談、各講座開催、実習等

「福祉的就労(訓練)」 (障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス)

- [就労移行支援事業所](#)、●[就労継続支援A型事業所](#)、●[就労継続支援B型事業所](#)
- また、就労した後の定着支援を行う、就労定着支援事業所というものもあるよ。

「就労準備のリハビリ」

自立訓練施設など (障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス)

※京都市内にある高次脳機能障害に特化した自立訓練施設は1箇所

- [京都市地域リハビリテーション推進センター障害者支援施設](#)

他にも、生活介護事業所などがあるよ。

「生活面などの相談」

- [障害者地域生活支援センター](#):日常生活全般にわたる相談や支援等
- [各区役所・支所保健福祉センター](#) 他にも、相談支援事業所があるよ。

現時点ですぐの就労が難しい場合は、福祉的就労や訓練の場で、「できること」を広げていき、少しずつステップアップしていくのがいいと思うよ。たくさん相談窓口や支援機関があって、どの機関を利用していいか判断に迷うときは、[地域の支援拠点機関](#)に相談してね。

(2) 当センターにおける 就労支援の取組

安定して働けるためには、

- ステップを踏んで準備する
 - 自分ができること、苦手なことを知っておく
 - 自分の症状と必要な配慮事項を説明できるようにしておく
- ことが大切だったね。
当センターの就労支援を紹介するよ。



13

当センターにおける就労支援の流れ

- ・コーディネーターによる**個別担当制**での相談支援
- ・医療情報も含めた**情報収集**
(必要に応じ)
- ・診察(検査、精神障害者保健福祉手帳の申請支援)
- ・作業体験プログラムによる**準備性**や**課題の確認**
- ・**障害特性の整理**



一定の準備性が
OKなら…

準備性に課題が
多い場合は…

- ・就労支援機関への**相談同行**
(ハローワーク／障害者職業センター／
就業・生活支援センター／京都ジョブパーク等)

- (必要に応じ)
- ・復職や就労時に**職場に障害特性の説明、助言**
 - ・就労後のフォロー、相談支援

- ・自立訓練施設などの提案

- ・就労支援事業所への**見学同行**
(移行支援／A型／B型)
- ・事業所に**障害特性の説明、助言**
- ・利用後のフォロー、相談支援

14



その人の現在の作業能力、状況、課題に応じて、支援方針を検討するよ。

作業体験プログラムとは

高次脳機能障害による仕事への影響や現在の作業能力を把握し、工夫の提案などを行う小集団のプログラム。模擬的な職場場面での作業や他者とのやりとり等の経験を通して、今後の働き方や次のステップを考える。

日 時：毎週木曜日、午前9:30～午前11:30

場 所：京都市地域リハビリテーション推進センター

期 間：約2ヶ月（8回程度まで）

費 用：無料

対象者：京都市民の方で、相談支援において参加が適していると判断された方



丁寧さ、正確さ、指示理解、記憶力、計画性、集中力、持続力などの作業能力を確認します。いろいろな作業を通して、今の自分の得意・不得意を知り、その対策をしていきましょう。

15



興味がある方は、チラシを見てね。リンク：[作業体験プログラムチラシ](#)

「ワークサンプル幕張版(MWS)^{ムース}」も使用しています

「ワークサンプル幕張版(MWS)とは

※障害者職業総合センター
ホームページより抜粋

- ・障害者職業総合センターが開発したワークサンプル
- ・OA作業、事務作業、実務作業に大別された13種の作業で構成
- ・作業の疑似体験や職業上の課題を把握する評価ツール／作業遂行力の向上や障害の補完方法の活用に向けた支援ツール

作業体験プログラムでは、多種多様な作業の体験を通して、

- 得意／不得意作業の把握（**作業のマッチング**）
- 作業速度や正確性など**標準値との比較**
- 苦手になった部分を補う、あるいは効率よく取り組むための**工夫を実践的に試す**

を行います。

16

【作業内容の一例】

その方に応じて、
作業内容を決めていきます



パンフレット折り



カードの仕分け



ピッキング作業



袋詰め、たたみ作業



清掃作業



データ入力



電話対応&メモ



対人技能

17

「展望記憶課題」も取り入れています

展望記憶とは・・・これから行うべきことや予定の記憶

就労では、展望記憶は不可欠。

「1時間後に先方の会社に連絡しなければならない」

「午後3時から会議があるので、それまでに移動しておく」のように
次の予定を覚えておきながら、行動することが求められる。



作業体験プログラムでは、
作業と並行して、展望記憶課題に取り組む中で、
どれくらいの時間や情報量なら保持できるかを
自分で把握してもらい、展望記憶の低下に対しては、
代償手段(アラームやメモ)の活用の定着を促している。

18



展望記憶については、[入門講座2](#) スライド14を見てね。

「ふり返り」を、作業直後に取り入れています

注意力や記憶力の影響もあり、時間が経つと、自分の行動を、正確に振り返ることが難しくなります。

<確認のポイント>

- ・ 指示の理解
- ・ 作業の正確さ、スピード
- ・ 集中力、持続力
- ・ 疲れ具合
- ・ 報告や連絡、コミュニケーションのとり方
- ・ メモのとり方や活用 など



自身の課題や、それに対する助言／工夫をメモに残し、次回に解決できるよう取り組む。



自身の就労課題に気づくには、体験を通した直後の振り返り(リアルフィードバック)が有効

19

作業体験プログラムの報告書を作成し、お渡しします

実際の作業場面の課題とそれを補う工夫、周りに求める配慮などのまとめ



就労準備性については、「就労移行支援のためのチェックリスト」※に一部加えたものを使用。

(※障害者職業総合センター作成 就労移行支援のためのチェックリスト)

20



この報告書は、ご本人や家族と共有するよ。

また、次の就労支援機関が、ご本人の作業能力や障害特性を把握したうえで支援してもらえるようご本人の了解のもと、その支援機関にも報告書を共有するよ。



作業体験プログラムを通して、Aさんの自己認識も変化があったよ。

【モデルケースAさんの認識変化】

(初回)

「家の生活は問題ないし、フルタイムで働けると思う。」

「今までしてきたパソコンなど事務仕事が向いている。細かい作業は、苦手。」

「なぜ私ばかりが注意されたのか。」(上司に不満)



(終了時)

「思っていたより、疲れた。やはり短時間の仕事から慣らす方が良さそう。」

「注意力が低下していて、人より入力に時間がかかった、疲れるとミスも多かった。事務よりも軽作業の方が疲れにくいかも。細かい作業も、意外に丁寧にできた。」

「一度に複数の指示を受けると抜けるので、その場でメモをとろうと思う。分からないときは、その場で確認していく。」

小集団で取り組むことで、

- ☆自分のことを客観的に知ることができる。
- ☆他の参加者の工夫も参考にしやすい。



21

まとめ

安定して働くことを目指すには、

- ・就労準備性を意識して、ステップを踏んでいく。
- ・今の自分の課題や状況にあった就労支援機関を上手に活用する。
- ・自分の障害特性とそれを補う方法を知っておく。
(自分でできる工夫、職場で得られるとよい配慮など)
そのうえで、職業適性に応じた仕事選びをする。

が大切だよ。



22



障害者職業センターを運営する「[独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構](#)」(リンク)のページには、高次脳機能障害のある方が就労するために参考になる資料があるよ。

障害者就労に関する参考になるWEBページ

独立行政法人
高齢・障害・求職者雇用支援機構
Japan Organization for Employment of the Elderly, Persons with Disabilities and Job Seekers

働く広場
7

調査研究報告書
NIVR

就業支援ハンドブック

23

お疲れ様でした～。
入門講座5のダウンロード版は、これで終了。

高次脳機能障害は、何年経っても変化しうる！
少しずつ生活の幅を広げていってくださいね～。

ご不明な点は、
京都市高次脳機能障害者支援センター
(もしくは各地域の高次脳機能障害支援拠点)に
相談してね。

24



リンク:[各地の高次脳機能障害支援拠点機関](#)
([国立障害者リハビリテーションセンター](#) [高次脳機能障害・支援センター](#))